

## 第3学年 社会科（公民的分野）指導案

1 単元名 『私たちが生きる現代社会と文化』

2 単元について

(1) 単元観【中学校学習指導要領 社会 公民的分野 内容：(1) 私たちと現代社会 ア 私たちが生きる現代社会と文化】

ア 中略 また、現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、我が国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる

学習指導要領の改訂に当たって、伝統と文化に関する教育の充実はこれからの教育に求められている課題でもある。国際化がますます進展する中、これからの将来を担う生徒たちが国際社会に貢献し、世界の人々から信頼される日本人となるためには、異文化に対する理解を深め、異なる文化をもつ人々が協調して生きていく態度を養う必要があると感じる。

また、自分の生まれ育った国や地域の伝統と文化を学ぶということは自分自身の生きている基盤を学ぶことである。さらに、どのような背景のもとに成長してきたか、自分のものの見方・考え方がどこから来ているもののかなど自己の成長発達の跡を知ることでもある。つまり、伝統と文化から学ぶということは、自分自身を掘り下げる、深めていくという点で普遍的な価値をもつといってもよいと考えられる。そして、わが国や郷土（地域）の伝統と文化への深い理解を通して、国を愛し、郷土を愛する心を育てるということも、伝統と文化を尊重することの重要な意味であり、豊かに生きるという点で、普遍的な価値をもつと考えている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、外国の文化に対する知識が断片的であり、日本の伝統的な文化については、自分との関わりを感じている生徒は少ない。

学習中の話し合いは昨年度からいくつかの教科で協同学習の要素を取り入れた学習をおこなってきたことによりある程度定着してきている。また、4月から生活班を利用した、協同的な話し合いや知識構成型ジグソー法を用いた学習も数回おこなってきていることもあり、各教科で共同学習の要素を取り入れた学習が行われているため、話し合いを行える雰囲気はできつつある。ただ、課題の内容によっては、一人に頼り切ってしまう、その人が欠席すると、話し合い活動がうまくいかない班もある。

(3) 指導観

指導にあたっては、本時の目標をわかりやすく示し、単元の流れを大まかに説明することで、全員に学習の見通しをもたせたい。生徒には日本の伝統的な文化と聞いて連想するものをあげ、それについて調べてくることを事前に課題として出しており、それをもとにして本時の学習をスタートする。

また、教師主導にならないため、5人班で誰か一人に頼りきりにならないため、3人組で知識構成型ジグソー法を使って行う。在日外国人の方々の方々の自国の文化についての説明を責任もって聞きとり、グループの仲間に伝える活動を取り入れることで、他者の意見を聞いて自

分の考えを広げる、生徒主導の学習を構成したいと考える。

### 3 単元のねらい

<単元を貫く問い>

なぜ国によって文化が違うのか、地理と歴史で学習したことをもとに考え、外国人に日本の伝統的な文化を伝えよう。

- ・外国の文化や日本の文化の多様性を知り、日本の伝統と文化に対する関心を高め、外国の文化と日本の文化の違いを意欲的に見つけることができる。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- ・我が国の伝統と文化の意義やそれらが現代社会に与えている影響などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。

(社会的な思考・判断・表現)

- ・文化によって初めて豊かな生活を享受できること、ものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって影響を受けていること、文化が現代社会を規定する大きな要因の一つであることを理解することができる。

(社会的事象についての知識・理解)

### 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
現代日本の特色や我が国の伝統と文化が自然や社会との関わりの中でどのように受け継がれてきたのかについて意欲的に追究している。	わが国の伝統と文化の意義や、それらが現代社会に与えている影響などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	文化によって初めて豊かな生活を享受できること、ものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって影響を受けていること、文化が現代社会を規定する大きな要因の一つであることを理解し、その知識を身につけている。

### 5 指導と評価の計画

時間	ねらいと学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	理	
1 本時	<b>現代社会と文化の多様性</b> ○外国の文化や日本の文化の多様性を知り、日本の伝統と文化に対する関心を高め、外国の文化と日本の文化の違いを意欲的に見つけている。 ・外国の文化と日本の文化を比較し、違いを見つける。	○				・ワークシート ・観察
2	<b>受け継ぎ、創造する 日本の伝統・文化</b> ○日本の文化と外国の文化の違いを理解し、日本の文化を外国の人に紹介文をわかりやすく表現している。 ・日本の文化を外国の人に紹介する紹介書を作成する。		○		○	・ワークシート ・観察 ・紹介書

### 6 本時の学習

(1) 本時目標 外国の伝統的な文化を知る活動を通して日本の伝統的な文化と比べ、なぜ国によって文化が異なるのかを全員が説明できるようにする。

(2) 本時の評価規準

観点	学習活動における具体的評価規準	「十分満足できる」(A) 生徒の具体的な状況	「努力を要する」(C) 生徒への手立て
関意態	外国の伝統的な文化と日本の伝統的な文化の違いを意欲的に見つけ、なぜ国によって違うのか書いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の文化と日本の伝統的な文化の違いについて自分の考えを書いている。</li> <li>その国の文化に影響を与えているものは何かを自分の言葉で書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の文化と日本の伝統的な文化の違いについてワークシートに書けていない生徒には何と何を比較すればよいかを伝える。</li> <li>影響を与えているものが書けない生徒には、地理・歴史の教科書・資料集を提示する。</li> </ul>

(3) 学習過程

	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点
2	1 目標と手順の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の流れ、本時の目標を知る。</li> </ul>	
	台湾、ベトナム、アメリカの伝統的な文化と日本の伝統的な文化を比べ、なぜ国によって文化が違うのかを全員が説明できるようになる。		
5	2 在日外国人の自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>在日外国人（台湾、ベトナム）の方々の自己紹介を聞く（一斉）。</li> </ul>	A：食 B：行事（イベント）C：祭り
10	3 各国文化の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>在日外国人の方々の各テーマに沿った説明を順番に聞きメモをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この後の活動で、3人組のあと2人にポイントをしばって説明するため、ポイントをメモするよう伝える。</li> <li>各テーマ4分</li> <li>聞く人は、大切なことをメモするよう伝える。</li> </ul>
20	グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人組に戻り、メモしたことをもとにその内容を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマ2分</li> </ul>
28	4 日本の文化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の文化と日本の文化を比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人がしっかり考えることが、グループやクラスの考えを深めることにつながることを伝える。</li> </ul>
33	個人活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その国の文化に影響を与えているもの（要素）は何か」を考える。</li> </ul>	○個人活動で、ワークシートに自分の考えを書いているか。（ワークシート）
45	グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>影響を与えているもの（要素）をグループでできるだけたくさん出す。</li> </ul>	
48	個人活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の生徒の意見でなるほどと思ったことは色ペンで書き加える。</li> </ul>
48	5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のねらいを振り返る</li> </ul>	